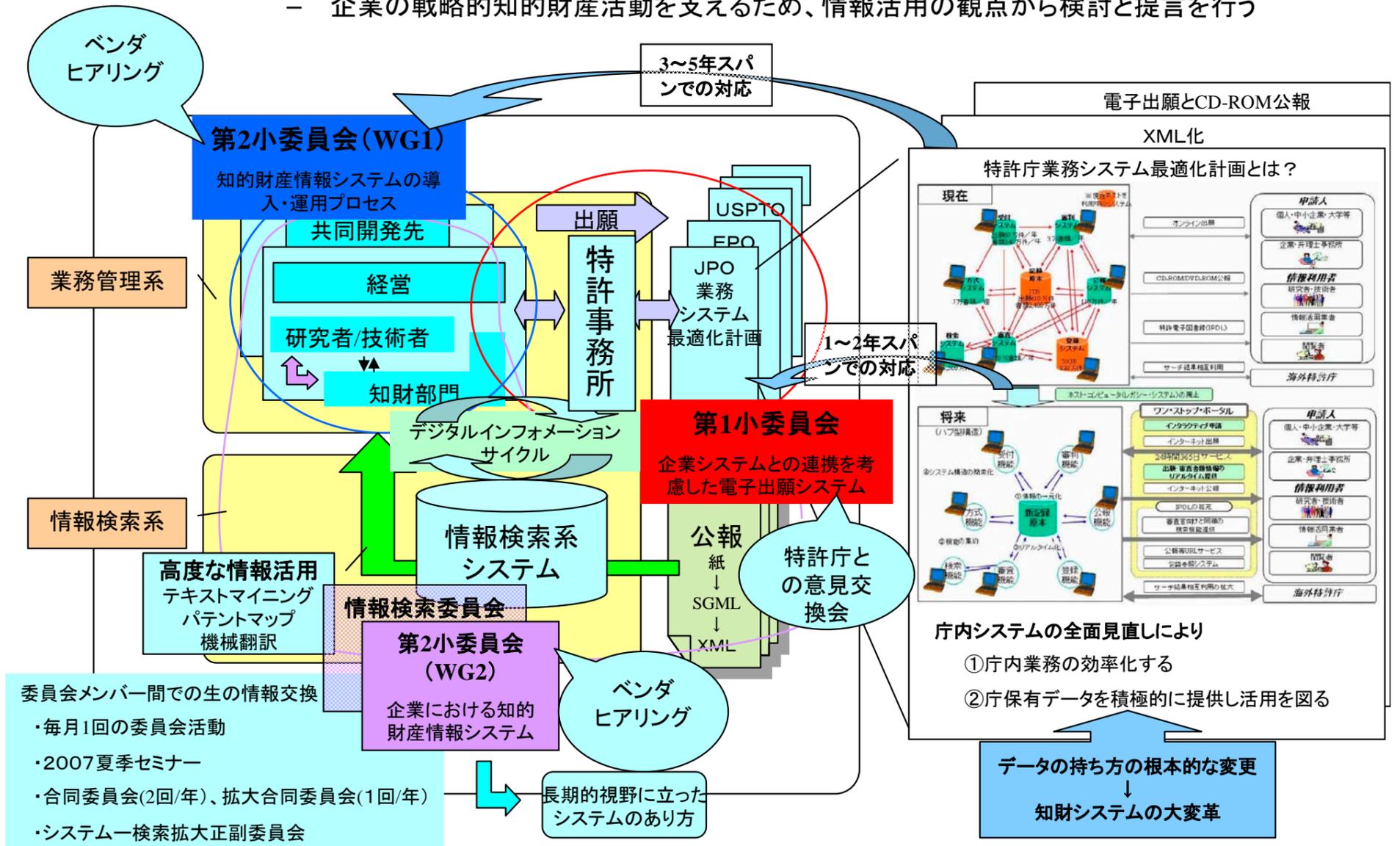


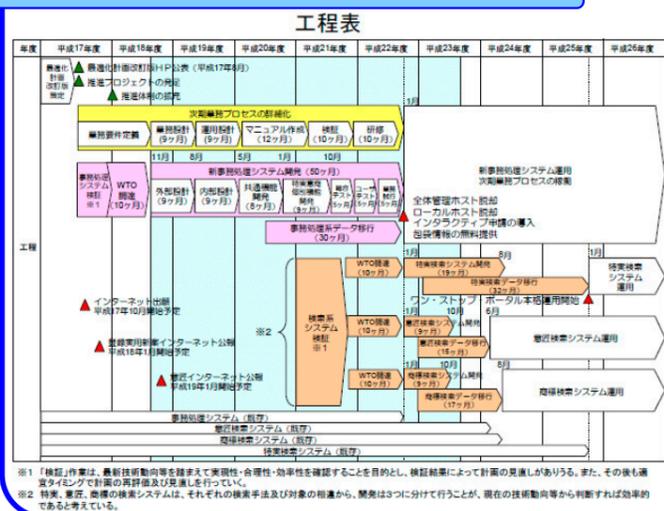
特許情報の流れとシステム委員会分担テーマ

- 経営に資する知的財産情報システムの検討と提言
 - 企業の戦略的知的財産活動を支えるため、情報活用の観点から検討と提言を行う



第1小委員会 2007年度活動

特許庁業務システム最適化



パブリックコメント 募集8/21-9/20 結果公開11/5

- 【意見1】 申請権限の無い本人認証の実現
 - 【回答】 公開情報のみゲストユーザで利用できる仕様を検討
→ 企業でインタラクティブを活用する上で公開前情報の利用は必須の機能。意見交換会で出された手続き機能のない証明書ストア作成機能の実現を要望していく方針。
 - 【意見2】 中間コードの存続を希望
 - 【回答】 書類の統廃合、一元化により、体系が変わるが、新たなコード設定は行なわない
→ コード廃止は企業システムへの影響大。新体系でのコード化を強く要望する予定
 - 【意見3】 早い段階でのインタラクティブ申請の全機能のAPIの提供を希望
 - 【意見4】 CSVなどリスト形式のデータを用いた手続きの一括処理が可能な環境の提供
 - 【意見5】 通知書類の構造化と主文書と管理文書との整合
- これらについては期待できる回答を得ている。今後の意見交換会などを通じて確認と要望を出していく。

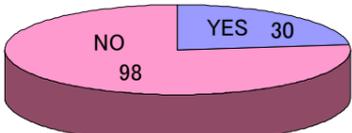
インターネット出願

インターネット出願に関するアンケート(07年10月実施)

Q: 社内からオンラインで特許庁手続を行なっていますか?



Q: インターネット出願を行なっていますか?



Q: インターネット出願へ移行していない理由?

- ・メリットがないので移行したくない ⇒ 47.5%
- ・移行したいが準備ができない/進まない ⇒ 30.3%
- ・当初からの計画でまだ未実施 ⇒ 9.9%
- ・その他 ⇒ 12.1%

Q: インターネット出願移行の障害は? (複数回答可)

- ・電子証明書の取得、管理、運用 ⇒ 80件
- ・移行の必要性がない ⇒ 42件
- ・システム対応 ⇒ 32件
- ・情報不足 ⇒ 20件
- ・特になし ⇒ 8件
- ・その他 ⇒ 7件

会誌投稿 (2008年4月号 予定)

「インターネット出願導入と運用Q&A」

ISDN出願はいずれ廃止される。また業務システム最適化計画もインターネットが前提である。インターネット出願へのスムーズな移行を支援する目的で、アンケートから明らかとなった未実施の企業で心配している点や疑問となっている点、あるいはすでに実施している会員からのアドバイスなどをQ&Aとしてまとめ「知財管理」誌に投稿する予定である。これからインターネット出願へ移行する会員はもとより、すでに実施している会員にも運用上の問題などを再確認するために役立つ内容となりますので、ご期待下さい。

特許庁からの情報収集

特許庁主催の会議や特許庁システム関係部署との意見交換会などを通じてオンライン出願など最新情報を取得

2007年度実績

- ・「パソコン出願ユーザ連絡会」… 2回
- ・「インターネット出願推進協議会」… 2回
- ・意見交換会 対特許庁情報システム室… 3回、WIPO… 1回

第2小委員会 WG1 2007年度活動

知的財産情報システムの導入・運用プロセス

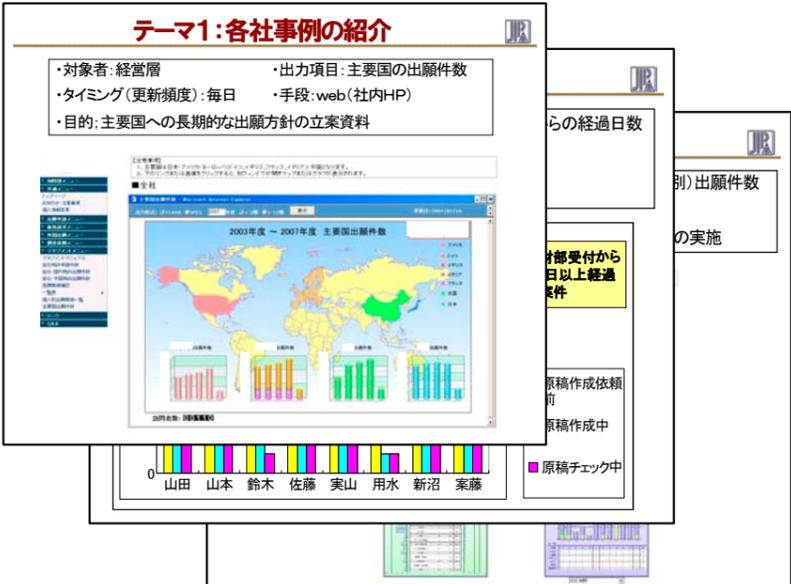
■本研究の背景

国内出願を中心とした管理システムの構築・ワークフロー導入後に、各社に共通するシステム上の主要な課題を取り上げ、研究を行う。

■本研究の目的

各企業におけるシステム上の運用課題と対応方法などを明らかにし、各企業の効率的・効果的な知的財産情報システムの運用に寄与する。

テーマ1:「管理系データの活用」



各社の具体的な事例の収集と分析
⇒目的別の有効な活用方法の提案

■本研究の進め方

- ・テーマ選定: アンケートによる共通課題の抽出。
 - ⇒ 特許庁業務最適化計画への対応。(次年度テーマ)
 - ⇒ 管理系システムのデータ活用。⇒テーマ1
 - ⇒ 外国出願管理システム。 ⇒テーマ2

・研究方法

- テーマ1: 各社の活用事例の収集と分析
- テーマ2: 市販ベンダの仕様・機能の比較検討

テーマ2:「外国出願管理システム」

分類	主な検討項目	A社				B社
		現状	今後	標準	OP	..
全体	リリース時期	'02	'09	—	—	..
	外国ワークフロー	○	○		○	..
インターフェース	現地語(英語)の切替	×	△		○	..
法制度	期限管理ルールマスタ	×	○	○		..
	非対応国のユーザ設定	×	○	○		..
	米国IDS支援機能	△	○	○		..
:	:	:	:	:	:	:

主要なベンダ(5~6社)を招聘し、ヒアリング開催中
⇒企業が望む機能と開発状況の確認

第2小委員会 WG2 2007年度活動

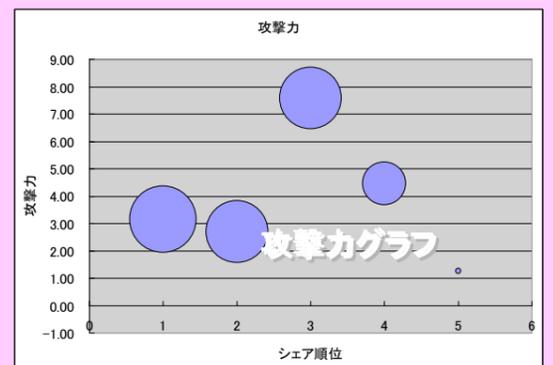
知的財産情報システムのあるべき姿の検討と提言 「経営に資する知財情報システムとは？」



各種知財情報データベースから得られる検索結果を元に、
「誰にでもわかる」「活用のしやすい」知財情報とするための加工・解析システムを検討・提言する。

今年度のサブテーマ 「知財情報+非技術情報による新しい角度からの解析」

- 現在の問題点
 - パテントマップを理解するためのスキルが必要
 - 技術動向中心で、市場動向との関連付けが希薄
- 検討内容
 - 知財情報+非技術情報の組合せによる、解析結果の見える化
 - 知財情報+非技術情報を組合せて解析し、事業に直結した情報とする
 - 知財情報提供ベンダに対し、解析サービス動向のアンケート実施とヒヤリング
- 検討結果(途中経過)
 - 知財情報と組合せできる、非技術情報の検討
 - ベンダへのアンケート実施
 - ビール類商品を事例に、各社の動向・次期新商品開発に活用できる解析結果例の作成



攻撃力=出願件数/シェア

* 非技術情報とは
 •市場占有率など、市場情報
 •研究開発費などの経営情報
 •担当営業のもっているユーザ情報
 等の営業的視点の情報